

灯



私事だが4月に母を亡くした。93歳で死去した母は1953（昭和28）年の労働省主催第1回全国婦人会議に大分県代表として出席。その後も英語教師をしながら5人の子育てをし、調停委員など、地域でさまざまな活動をしてきた。

83年、英語教師 盆を退職したら、その翌年には若者の町おこしに共感して草野本家おひなまつりをはじめ、豆田町のみならず日田市の観光の核ともなった天領日田おひなまつりの創始者にもなった。

振り返ってみると、私自身の考え方や行動の原点はそのほとんどが母から教えてもらったものであることに気付かされる。昭和30年頃の話だが、ある大手労働組合が組合歌を

公募し「しあわせの歌」という曲が当選した。労働組合色が薄く歌謡曲風であったためか、かなり広く親しまれたと聞いている。歌いだしは

♪しあわせはおいらの願い
仕事はとつても苦しいが、
というもので、私は今でも歌える。それは歌好きの母が時々口ずさんでいたからだ



草野 義輔

が、母は歌うときいつも「仕事は楽しいものでなきゃ」といって♪仕事はとつても楽しいが、♪と替え歌にしていた。確かに仕事は決して楽ではないが、苦しいだけでは続くはずもない。厳しい中に楽しさを見つけ出してこそ良い仕事につながるものだと思う。

近々、きょうだい全員そろって母の初盆法要を行う予定にしている。（昭和学園高校理事長・日田市）